「高校生の声を国会議員に届けよう！2025」　みんなの意見まとめ

セーブ・ザ・チルドレンは、2025 年 5 月 17 日～18 日に「高校生の声を国会議員に届けよう！～高校生のまなびとお金について～」ワークショップを実施しました。本まとめには、参加した高校生による意見を掲載しています。名前は本人が決めたニックネームです。

●まっつん

「子どもたち一人ひとりが輝ける環境作り、サポートを！！」

子どもたち一人ひとりが輝ける環境作りとサポートについて伝えたいと思いました。

お金のことで、自分の希望する進学先や、自分だったら友だちとの付きあいをあきらめて自分のやりたいことができていない人、そして夢を叶えられない人がたくさんいる。

自分も取りたい免許、資格などにお金がかかり何回かあきらめたことがある。友だちの話だが、進学できても、進学先でどんどんかかるお金により、暮らすのが難しくなり、学校をやめてしまった友人が実際いる。子どもたち一人ひとりの夢や希望がお金によりあきらめるのはあってはならないことだと思う。

なので義務教育を高校まで引き伸ばすか、高校に通うためにかかる色々なお金を無償化してほしいと思いました。

高校まで義務教育とすれば、一人ひとりの未来への道を広げることができるし、また、高校に通うためにかかるお金を無償化することで、親の負担は、学ぶお金、遊び代、昼食代、塾代やそれ以降の大学だったり進路、未来に有効活用できると思う。大人が一人ひとり輝いているように、子どもたちが学んで、楽しく遊んで過ごせる、輝ける場所が高校などの学びの場であってほしいと思っている。

●りょうが

「スポーツできる環境ほしい」

なぜなら都会の学校はグラウンドがビルや建物が多すぎてあまりつかえないからです。なのでもっとスポーツできる場を増やしてほしいです。

具体的には硬式野球ができる場を増やしてほしいです。部活の環境がきつくなって、クラブの活動が増えてきている。部活はお金がかからなくて、勉強も集中しやすい、クラブはお金がかかるけど環境がよい。でも練習時間が長くて、勉強に集中しづらい。

できれば両方合体するといいのかなと思いました。部活のようにあまりお金がかからず、環境がよくて、勉強に集中できるくらいがよい。

そういう部活が増えれば伝統のある甲子園、高校野球も盛り上がって、楽しく高校生活と青春をむかえられるのではと思いました。

●すが

「奨学金の背景と課題」

私は奨学金について伝えたいと思いました。なぜなら私も高校に入る時に、給付型、貸付型の奨学金の利用を考えていましたが、卒業後に長期間の返済をしないといけなかったため断念したからです。貸付型の奨学金利用者の返済負担が大きく、また給付型や無利子奨学金が十分に整備されておらず、所得連

動返済型の設計にも問題があるからです。なので今よりも給付型や無利子奨学金を増やしてほしいと思います。具体的には各家庭の困窮度に応じて給付型奨学金枠を拡大し、無利子・返済不要の支援を強化することです。

●りゅうと

「高等学校の完全無償化」

僕は高等学校の完全無償化について話したいと思います。高等学校の完全無償化を目指してほしい理由は、貧困な家庭でも問題なく学校に通えるようになったり、学習意欲はあっても資金の問題で学校に通えていない人が通えるようになったり、また学校に通うお金はあるけれども塾や資格を取るためのお金がない人や塾や資格を取れるようになったり、そのような目標がなかったとしても学校にかかるお金を生活にかかるお金に回したりできるからです。

ですが今すぐ完全無償化するというのは、かなり難易度が高いと思うので、まずは完全無償化する条件をあらかじめ決めておいて、一部の世帯に完全無償化を目標にしてほしい。もしくは完全とまでいかなくても一部の授業料や教材費、ジャージ、制服などの費用を削減してほしいです。

●ひまり

「学校外の活動への支援について伝えたい」

私は中学１年生の時、当時の自分の将来の夢に向かって頑張っていたことについていじめを受けました。その時、自分は唯一のアイデンティティを否定された気がして、本当に自分に自信をなくしてしまい学校に行くのがつらくなってしまいました。そんな時、たまたま親に教えてもらった学校外のキャンプに参加し、多くのまなびを得てチャレンジしてみたいと感じ、いろいろなプログラムやコンペティションに参加し始めました。その中で賞をもらったり、励ましの言葉をもらったり、たくさんの人と接することでコミュニケーションができるようになったりしました。

私はそれらのたくさんのあたたかい経験を通して、物事への見方がとても変わって、自分の価値を見出せたりとか、逆に人に特別な価値なんて無くてなくてもいいんだ、とかそういうことを感じるようになりました。

そのような経験から、私が参加していたプログラムは基本的にすべて無料だったり、一部助成が出るもの、奨学金が出るものしか参加できていなかったが、他にもたくさん参加したいものがあったが、やっぱりお金がかかることであきらめることもあった。もちろんそういうキャンプとかは、いじめをうけたとかではなくとも普通に生活していても、自分の将来どうしようという不安も、参加することで取り除くとか、新しい価値を見出せると参加者のみなさんはおっしゃってるので、自分はそういう機会をみんなにぜひ経験していただければいいのではないかと思っている。お金ではなくてもそういったイベントを主催するための支援を各団体とか高校生とかに支援をしていけたらすごくいいんじゃないかと思う。

●さくら

「学習施設・スペース拡大化」

私は学習スペース・施設の拡大化について伝えたいです。

なぜなら現状では学生の勉強できる環境が限られているからです。例えば有料スペースやカフェなど金銭面に負担がかかる場所が多いことが挙げられます。だからこそ私は無料かつ長時間集中できる学習スペースを増やすべきだと思います。そうなることで学生の学習意欲が高まり、学力向上にもつながる

と考えました。例えば学習施設の新設や公共図書館の自習席の拡充、または地域の空き施設を活用した学習環境の整備などが必要なこととして挙げられます。

●りか

「通信高校生の地位向上とデジタル環境の支援」

世間の偏見や差別がまだ通信制高校生に対しては向けられていると思います。なのでそういった差別などを払拭できるよう、政府が啓発活動や支援を積極的に取り組んでいくべきだと思います。具体的にはデジタル機器の無料贈与や貸し出しなど、これらは企業などのパソコンを買い替えることが必要なので、そういったものを買い替えたあとのパソコンを利用してやってみてはと思います。

学びの多様化を近年はうたっていると思うが、全然できていないと感じるので。その理由は、まだ学校へ行く、授業を対面で受けるということを大多数の普通とする流れがあって、それ以外を選んだ人への差別感情や疎外など強いというのが今も、令和の今も変わっていないと思うので、そういったことがアメリカのホームスクーラーやオンラインで単位を取るというのが一般的な国に比べ遅れをとっていると思います。これから先も通信じゃない学校でもデジタルやメタバース教育の観点からもそういったことへ取り組んでいくのがいいと思います。制服や給食などがそもそもない場合も通信などはあるので、そういった場合は制服や給食の補助をしても、根本的な補助になっていないので、通信生だけの補助というのも何か考えてもらいたいです。

●みぃ

「高校の義務教育と日本の現実」

私は義務教育を高校生までひきのばすことについて、現在の日本の現実からこの考えにたどりつきました。

現在の日本は中学校までが義務教育となっていますが、中卒はクラスに数人いるかどうかというところです。数字を見ても、高校に行くことが普通という意見が多いのが現実だと思っています。

実際今の時代中卒の子を会社や店が雇う所は少ない事と募集していても不利な状況になることもあること、身の回りに中退する人も少なくはない。さまざまな理由から「義務教育を引きのばすこと」について考えました。

●みお

「高校生も義務教育に！！」

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

2025 年 6 月
子どもたちの意見をもとにセーブ・ザ・チルドレン作成